

法華寺だより

令和5年12月 8日 244号

釈尊成道会



シヤカ族の王子という位を捨て、人々の迷いや苦

しみの救わんとして高名な思想家や修行者の元で難行苦行に励むがいずれも悩みを増すばかり。疲れ果てた体を清め、村娘の差し出す乳がゆで喉を潤し、菩提樹の下で静かに瞑想にふけた。次々と現れる煩惱と誘惑を見極

め、八日目の朝日が昇るとともに苦しみの正体を解明する（正覚）。しかし、悟りの困難さから、輪廻を断ち苦しみから開放される真理を伝えることを躊躇したが、バラモンの最高神が現れ、布教を促したとされている。（初転法輪）

日蓮宗のお経

普門品偈 ② 観音経

汝聴観音行	善応諸方所	弘誓深如海	歴劫不思議	侍多千億仏
発大清浄願	我為汝略説	聞名及見身	心念不空過	能滅諸有苦

無尽意菩薩よ、観世音菩薩の行願（修行と誓い）を聴きなさい。あらゆる所からの呼びかけにも応たえて人々を救いたいという大いなる誓いは海のように深いものです。

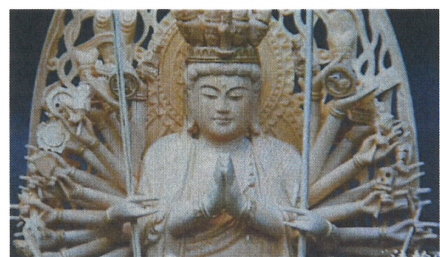
幾ら歳月を重ねたとしても凡夫には考え及ばないことでしょう。何千億という多くの仏に仕えて大変清らかで汚れのない祈願を掛けたのです。

私があなたのために簡単に説明しましょう。

観世音菩薩の名前を聞き、その姿を見て、救ってくださるよう

心の中で祈り、無駄に過ごす事が無ければ

どんな苦しみも消えて無くなるでしょう。



今月の聖語

永劫の
善苗を
植えよ

日蓮聖人ご遺文
「守護国家論」より

＝ 金 言＝

「**児孫のために美田を買わず**」、大きな財産を残すことは、子孫を怠け者にしてしまいかねないという戒めでもある。美田にするためには善き苗を育てなければならない。善き苗は親の生き方に表れ、その生き方を支えた信念があるはず。それが「金言」
ただその金言は、往々にして親の生前より亡き後に子の胸に蘇えってくる。

ところが、「美田」の具体的意味が時代とともに変化している。ことに現在では様々な意味に用いられている。懸命に生きたかどうかが大切であって、他人との優劣ではないと思うのですが……

☀…☀…☀…☀

☀…☀…☀…☀

☀…☀…☀…☀

お釈迦様が誕生された時代もインド各地で争乱が絶えなかったそうです。日蓮聖人が法華経弘通に精魂を込められた時も、キリスト教もイスラム教も争いを繰り返しながら今日に至っています。それだけに、せめて日本の平和は守りたいと強く願っています。解決すべき課題には事欠きませんが……

その中には「死者」とどのように向き合うのか、信仰の姿と宗門の維持等々も含まれてくると思います。

…☀… 80歳を超えると稚拙な雑文でも疲れます。後継者の目途も無いことから「法華寺だより」を一度終えたいと思います。20年余感謝 山崎